

《経営者向け講演》

2019年新春賀詞交歓会

2019年1月24日(木) 水戸京成ホテルにて

記念講演講師◇鈴木 尚広氏

読売ジャイアンツ一軍外野守備走塁コーチ

『巨大組織の中で磨いた「個」』

第1部：記念講演 18:00～19:40

第2部：賀詞交歓会 19:50～21:15

参加費：会員6,000円 ゲスト7,000円

定員：150名 ※定員になり次第受付終了とさせていただきます。



お申し込みはe.doyuまたはFAXで！

新入会員のご紹介

水戸支部



黒沢 公一さん
(株)加物事務所
代表取締役

水戸支部



井樋 智司さん
(株)いといえ
代表取締役

水戸支部



山崎 晴彦さん
(株)オーソントラベル
代表取締役

11月理事会承認時点
会員数

312名

会員は辞書の1ページ！

No.269号 2018年11月30日

DOYU IBARAKI



発行：茨城県中小企業家同友会
〒310-0851 水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館3階
Tel:029-243-8230
Fax:029-243-7225
Mail:info@ibaraki.doyu.jp

第7回 いばらき中小企業経営フォーラム



今年で7回目となる「いばらき中小企業経営フォーラム」がつくば市のホテルグランド東雲で開催されました。

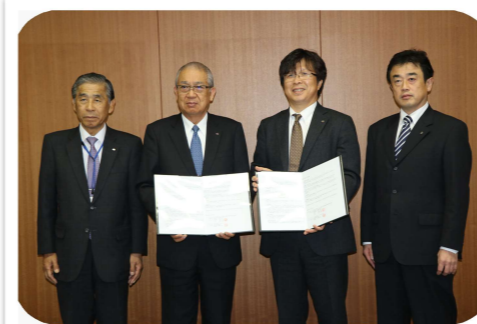
今年は「不易流行～信じる道を進むため、私たちは変わり続ける～」をメインテーマに三分科会「経営指針」「社員教育」「経営革新」で学びを深めました。

また、「いまあることに一手間加えそれを誇り楽しみ、人生を豊かにする」をテーマに(株)下園 薩男商店常務取締役の下園正博氏(鹿児島同友会会員)が基調講演を行いました。昭和14年創業のイワシ丸干し製造がメインの水産加工会社の三代目である下園氏は、干物の消費量が減少し、年々厳しさを増す環境に危機感を覚え、家業を継ぐことを決断。経営理念に戻づく様々な取り組みを行い、現代のライフスタイルに合わせて、商品開発などの事業展開を進めています。「自分にしかできないことをやった方が人生は楽しい」と語る下園氏が、社員と共に取り組む、豊かな地域づくりの実践に多くの気づきをいただきました。



連携して中小企業と企業の発展を

茨城県信用組合と茨城同友会が覚書を締結



2018年11月9日(金)
茨城県信用組合本店にて

過日、11月9日(金) 茨城県信用組合本店(水戸市大町)にて茨城県中小企業家同友会は茨城県信用組合と覚書を締結しました。

1. 目的
中小企業者等の経営の安定や経営基盤の強化を図り、地域経済の活性化を促進するため、それぞれが連携し中小企業者の活動を支援する。
2. 連携内容
 - (1) 中小企業者等への情報提供
 - (2) 相互の研修・セミナー等への参加や周知活動
 - (3) 地域における経済動向等の情報交換
 - (4) 個別企業からの相談への対応
 - (5) その他中小企業者等の支援に関する事項

締結式はお互いの活動内容等を理解したうえで、この連携によりなお一層中小企業者の経営安定と地域経済の活性化に向け相互に貢献していくことを誓い合い、和やかなムードの中、覚書は交換されました。

第1分科会 経営指針

『なりゆきの未来と、ありたい未来
～経営指針の真の意義～』

報告者：伊藤史紀さん (株)Co-Lab
座長：川井由美子さん (株)川井製材興業所

第一分科会では、42名の方々にご参加いただき、株式会社Co-Lab代表取締役 伊藤史紀さんに、「なりゆきの未来と、ありたい未来」と題しまして、経営指針の真の意義についてのご報告がありました。
ご自身のこれまでの体験・経験をもとに、ご専門の経営学からの観点も含め、経営とは何か？なぜ経営しているのか？目の前のことで精いっぱい、犠牲にしているもの、流されてしまっているものはないか、大切にかから、大切にすべきものを見つめなおし、自分自身の、そして自社の軸を決めることで、進むべき道である「ありたい未来」に到達するというお話でした。
まさに今回のフォーラムのテーマである「不易流行」の経営です。
不易とは、自身の軸＝時代が変化しても変えない・変わらないもの。流行とは、変化適応＝時代の変化とともに変える・変わるもの。
この原理をしっかりと押さえたうえでグループ討論は、テーマ「信念・理念を持ちつつ経営として成り立たせるために、どのようにしていますか？」でした。60分と言う短い時間での討論では、十分とは言えませんが、これを機に、もう一度立ち返り、家族と向き合い、社員を巻き込んで「ありたい未来」を描いていただく分科会になったのではないかと思います。自分の軸を持ち、時代の変化に適応しながら、利益主義に陥らず「ありたい未来」のために、経営指針があると言う事を学んだ分科会でした。

第3分科会 経営革新

『革新と挑戦で想いを形に！！
変わるよ！じぶんから！
さあ、一步を踏み出そう！』

報告者：若尾瑠美さん (株)いぬの整体院
座長：浜路洋一郎さん (株)リステップ

今まで無いものを創り出し新しいことを始めた「ドッグ整体」！
始めるきっかけは、当時飼っていた愛犬のバジルが、ある朝、麻痺性(マヒセイ)障害を発症して、声を発することもできずに倒れていました。最愛の家族を失うかもしれない怖さ、なんとかしなしゃ！！この思いで当時の勤務先の治療院で、同僚たちと手探りで初めて犬への骨格矯正を施術しました。結果奇跡が起こりました。愛犬バジルが声を出し吠えたのです。この時の感動は一生忘れられないものとなりました。これをきっかけに私にはできる！求められている使命感に気づき「ドッグ整体」という新しいものを生み出すことができました。
若尾さんは愛犬(家族)がつらい目に合っていて不安な思いでいる方の気持ちを知っています。一頭でも多くそして早く救いたい。それによって1つでも多くの家族を笑顔にしたい！その想いを形にしたのが「日本ドッグ予防医学指導協会」です。スクールとして、ドッグ整体士の育成することで、ドッグ整体を全国で受けられる世の中にできる！
若尾さんのグランドデザインである「治療業界とペット業界に革新を起こし日本を健康にする」この想いを実現させるため日々挑戦を繰り返している報告でした。
この報告で私たちは、ミッション・ビジョン・プロセスをしっかりと持ち成文化することの大切さを学び、夢や想いは描いただけではなく、実現するためには常に実践し、挑戦し続けることが大切であることを学び合うことができました。

第2分科会 社員教育

『「社員」×「社長の本気度」＝業績UP
～千成屋の付加価値は社員です～』

報告者：矢内久子さん (株)千成屋
座長：金井雅明さん (株)アンフィプロダクト

第2分科会は榎千成屋の矢内社長を報告者に迎えて行いました。千成屋は1937年に創業し、時代の波に乗り呉服販売で成長して来ましたが、当時OLをしていた矢内さんは家業が忙しいから手伝ってほしいと言われ、千成屋に就職。しかしその頃から時代の流れが変わり呉服の販売が低迷、廃業のピンチを迎えます。祖母が作った千成屋という名前を残したいと一念発起した矢内さんは、当時まだ売り上げの主ではなかった振袖に注目し、家族の猛反対を受けながらも振袖事業に特化していくことを決めました。当時の矢内さんは、経営陣と労働者の間にある想いが大きすぎていて、それを改善していくことが会社の発展につながると信じて、「経営者として任せてもらうこと」「現場に立つことを辞め、経営者としての仕事に専念すること」を決断しました。
そのタイミングで経営理念の大切さを感じ、理念を作るために自ら同友会の門をくぐり、導かれるように入会。全国を飛び回り、先輩経営者のいいところを貪欲に真似して、「人にやさしく、輝ける人を活かす経営」を次々に実践していききました。経営力の上がった会社では、社員が会社の問題を自身の問題として捉え、会社の成長に合わせ成長していききました。矢内さんは成長を遂げる仕組み、事業に専念することが出来、自立した社員に合わせて会社も更に成長していききました。そして、新しい取り組みを行う際には「振袖事業」を始めた時の「集客の仕組化」が役に立ちました。これらの一連の螺旋階段のような取り組みには、まさに会社が発展するためのノウハウが凝縮されているのではないのでしょうか？
入会してからまだ5年の矢内さんですが、短期間に様々なことを実践して来ましたが、それを成し得たのは、本気で社員と向かい合い、ぶつかり合い、話し合い成長していくという、矢内さんの本気度と強い覚悟があったからです。そして、呉服販売という斜陽産業からの脱却を図るという決断、アンテナの高さも見習わなくていけないと思うところです。矢内さんの報告の中には今後経済が縮小する中、われわれ中小企業が発展していくためのヒント、テクニック、アンテナを張る重要性が盛り込まれていました。それらを自社に持ち帰り実践することで会社の永続的な繁栄につなげていってもらえるのではないかと信じています。

青年部例会

『同友会的ジョイントベンチャー
～中小企業の戦略的連携～』

パネラー：青木恵之さん (有)日青工業
筑波洋海さん (株)筑波材木店
人見恭司さん 市松
コーディネーター：宮本裕一さん 第二映像企画

茨城青年部は、今年「志ありて、友ありて、未来ありて」というスローガンのもと、思いを1つにして活動を進めるなか、本大会の前哨戦として、午前中に別会場「同友会的ジョイントベンチャー」と題したパネルディスカッションを行いました。パネラーに、筑波さん(株)筑波材木店、人見さん市松、青木さん(株)日青工業の3人、デモレーターに、第二映像企画 宮本を含めた4人で進めさせて頂きました。
ジョイントベンチャーという言葉自体は、聞き慣れない言葉でもあるので、イメージしにくいと思いますが、3人のお話を聞かせて頂く「同友会的ジョイントベンチャー」という側面が見えて来ます。まず信頼関係です。始めた当初すでに、3人は知り合いであり、特に2人は幼馴染で、互いの信頼関係が前提にあったようです。次に「何故この3人が組んだのか」ですが、3人は、理念があり経営指針を持ち、常に手段を調整し、ご自分の会社をしっかり経営されている3人です。だからこそ、ご自分の成したいプロジェクトの方向性をしっかりと見定め選んだ相手であり手段なのだと思えました。このチーム「mils ends」(ミルズエンズ)は、お客さまに喜んで頂くことを目的としたビジネスで、自社ではなかなか出来ない事、または、自社で行うよりも、気心のしれた信頼出来る3人で進めることで、確実に成果が上がると判断した共通の思いをもって、4年が経過しました。また、4年間で得た成果は、自社にも還元されていると聞き驚きました。それは「mils ends」の成果とお客様の声を自社スタッフに伝える事だそうです。「ものづくり」をする者として、共に喜べる仲間となり「mils ends」と、それぞれの会社が1つとなりました。
「同友会的ジョイントベンチャー」は、大きな成果をもたらしたと、言えるのではないのでしょうか。これからも、志を共有し、友と共に、未来を切り開いてゆく、そんな力強い歩みに期待したいと思います。この様な素晴らしいチャレンジをした3人の報告に改めて感謝いたします。

10月の例会報告

日立支部



10月3日(水) 日立市多賀市民会館にて
『邪道を歩む ～やまの湯が目指す日常的空間～』
報告者：山野 和哉さん (有)やまの湯 代表取締役

テーマを「付加価値」としたどのような情勢にあっても、それを脅威と感ぜずに経営を続けられるか。それを問題提起された例会となりました。
企業において必要な事は「自社の目的と目指す姿を明確にする」その達成の為に同業や隣接業種の事例を「学ぶ」そして「オリジナルのポジショニングマップを製作する」現状で無理のない範囲で「実践する」それを「広報する」以上4点が必要だと学びました。
またそもそも自社の業種だけでなく、全てにおいて情報を得ることで時流を掴み取る力もつけなければ戦略を組む事すらできない事も確認されました。
消費増税・オリンピック、パラリンピック、茨城においては国体の誘致と2019～2020年は外部要因として大きな変化があります。そのような中でも負けずに「社会や地域に必要な存在として、存続できる企業づくりをし続ける事」を誓い合う事が出来ました。(レポート:白土 正博さん)

ドラゴン支部



10月12日(金) 取手センタービルにて
『Two Cases of Customer Attraction～集客を伸ばした2つの事例～』

報告者：池田 裕児さん (有)歌舞伎あられ池田屋 代表取締役
講師：戸田 さつきさん RUMKA 代表

ドラゴン支部10月例会は、12日(金)に取手市の取手センタービルにてオープンセミナーという形で開催されました。Two Cases of Customer Attraction ～集客を伸ばした2つの事例～と銘打ってドラゴン支部会員の(有)歌舞伎あられ池田屋 代表取締役 池田裕児さんと一般から参加のRUMKA 代表 戸田さつきさんから実際に使用している広告・宣伝チラシを参考にチラシ広告を出すうえでのポイントなど丁寧かつ戦略的な部分も交えて報告いただきました。に大事なことは、自己満足の発信ではなく、「お客様のメリットになることを伝えること」「お客様が来店する理由を作っておくこと」など、今後事業を展開していくうえで大変役立つ内容に「参考になった」「満足した」とのコメントを頂くことができ即実践に役立つ例会となりました。(レポート 事務局)

第19期経営指針成文化セミナー 第6講

経営指針委員会では、10月26日(金)常総市のポリテクセンター茨城にて経営指針成文化セミナー第6講が行われました。
これまでの講座では会社を運営していく中で何をめざしていくべきかを具体的な思いと形で明確にし、理念とビジョンを作り上げてきましたが、第6講からは講師に伊藤史紀さんをお招きし、ビジョン実現のために何をなすべきか、クリアすべき課題を考え、そのうえで時代の流れをつかみ、更に自社の長所・短所を分析し、それを活かしながら、自社の発展の道を見つけ出す。より具体的に実践的な事業展開について考えていきます。
前日がフォーラムだったということもあり、これまで受講生を支えてくれていた委員会・OBの参加者が比較的小さいセミナーではありましたが大変中身の濃い講座となりました。
第7講及び第8講は筑波山江戸屋さんで今期2回目の合宿を行います。



新入社員フォローアップ研修会 2018年10月4日(木)茨城県福祉会館にて

今年度の新入社員フォローアップ研修会が、10月4日に茨城県総合福祉会館で開催されました。この研修は4月に開催された新入社員研修会の半年後のフォローアップとして、毎年10月の開催しているものです。
午前の部では、社員教育委員長から4月の研修の振り返りが行われた後、「とらわれずにチャレンジすること」というテーマで、先輩社員からの問題提起を、昨年の新入社員研修会の受講生OGである(株)日宣メディックスの滑川万有子さんから報告いただき、各グループで感想を共有した後に、「半年前と今の違い。決意表明で出来たこと出来なかったこと どうしてそうなったのか。出来た理由、出来なかった理由は？」というテーマでグループワークを行いました。
午後の部では、午前中のみが行われた後に、「社会人として「働くとは」どういうことなのか」をテーマに、経営者からの問題提起を(株)つば食品代表取締役の八巻大介さんから講演いただきました。午前中と同様に感想を共有し、その後、グループワークで「半年間で気づいたこと、学んだことをどのように活かしていきますか？」をテーマにしたディスカッションを行い、全員がチームの一員としてテーマを纏め、それを漢字一文字に表して発表を行いました。今年の漢字は「知」「積」「経」「動」の4つ。半年前に誓った約束がきちんと達成出来たか、社会人として半年間の実践をこれからどう生かしていくか、自分自身の決意表明と共に、熱く発表しました。最後には同期会で半年ぶりの再会を改めて喜び合い、同期として切磋琢磨しながら、今後の活躍を誓いました。

